

平成28年度 活動報告書

Annual Report 2016.4 ~ 2017.3



認定NPO法人 地球市民の会



Accountability Self-Check 2012



事業報告	P.1~9
決算報告	P.10~23
事業計画	P.24~26
予算	P.27~28
役員・理事リスト	P.29~30
変遷・組織図	P.31

平成28年度 地球市民の会の活動の総括

理事長挨拶

一粒の麦…。

聖書の中に、こんな言葉があります。

”一粒の麦、もし地に落ちて死なば多くの実を結ぶことなし。”

地球市民の会は、34年前の九州・佐賀の地に、故古賀武夫会長が、国際交流と国際協力、そして、地球の平和を民間の立場から希求して活動して行くことを誓い、設立した会であります。彼は、その求めた活動の中で「地球市民運動」「地球共感教育」等を創り、いつも口癖は、”明るく楽しく元気よく！！””やってみらんと分からんだろうが…。あんまり深こう考えるナ！！やるばい！！”でした。これらは、彼が残した地球市民運動の基本姿勢だったのだと思います。

この三十有余年で時代は大きく動いて来ました。日本も地球もドンドン変化していきます。九州・佐賀にも幅広く強く元気なネットワークができています。そして、更に拡大していきます。今、それらを観る時に、故古賀武夫会長は、確かに”一粒の麦”であったのだと思われます。会員の皆様、地球市民の会と共にあられることに心より感謝申し上げます。



特定非営利活動法人地球市民の会 理事長 山口 久臣

活動方針の振り返り

地球市民“5000人”の輪キャンペーン

～地球市民の会の事業に関わる方々の輪を広げる活動を行っていきます～

国際交流事業、講演会、地域でのイベントへの参加やボランティア、延べ5671人の方々に関わりをいただきました。長く、会を支えていただいている方にも参加いただき、また、新しく会のことを知って、活動に参加してくれた方も全体の3割でした。目標の5000人を超えることができ、より一層、地球市民の輪が広がった年となりました。

重点項目の振り返り

① 国際交流を通して地球市民の輪を広げました

スリランカ、ミャンマー、中国・韓国からの3つの招聘事業がありました。また、国際交流のイベントにも積極的に参画しました。そのイベントには、地元の大学生や社会人にもボランティアとして運営に関わってもらい、会の活動を支えてもらいました。交流事業やイベントを通して1386人の方にボランティアやホストファミリー、参加者として関わってもらいました。

② 新たな寄付の仕組みの構築を行いました

新しい寄付の形として、「ふるさと納税」を活用しました。佐賀県は全国に先駆けて、NPOを指定したふるさと納税ができる仕組みになっています。佐賀県内でも20以上の団体が取り組んでいます。具体的には、佐賀県を通して地球市民の会を指定して寄付していただいた方にお礼として、佐賀の特産物を送っています。これまで、関わりがなかった全国の方々からも、ふるさと納税を通して寄付をいただき、地球市民の会を知るきっかけづくりができました。

③ 成果を意識して、事業の「見える化」を行いました

主にフェイスブックでの情報発信に取り組みました。事業の報告だけでなく、事業を通して地域がどのようなようになったのかなど成果を意識した発信を行いました。また、会員の方々との交流の様子やボランティアに来てくれた方の紹介なども行いました。会のフェイスブックページも年度当初は「1200いいね」もなかったのが、年度末には目標の「1700いいね」を超えることができました。年間を通して500人以上の方々に情報を新しく届けることができました。

平成28年度直接事業費明細

事業	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲、人数	支出額(千円)
国内事業	中山間地域づくり事業	通年	佐賀市富士町 吉野ヶ里町	2人	佐賀市富士町、吉野ヶ里町、協力者延べ320名	860
	夏休みキャンプ(ふるさとステイ)	7月～8月	佐賀市富士町関屋、 三瀬中鶴	2人	佐賀県、福岡県小学生 123名 富士町/三瀬協力者 15名	802
	雪国ふるさとステイ	12月	福井県	2人	佐賀県、福岡県小学生 8名	640
	日中韓大学生交流事業 TOMODACHI100	1月	佐賀県内各所	2人	中国人大学生8名、韓国人大学生19名、協力者195名(日本人学生も含む)	1,408
	委託事業	通年	佐賀市内	2人	参加者 延べ150名	456
	ふるさと納税	通年	全国	2人	寄付者 164名 協力業者 7社	2,243
	その他(絆伝心、物販、業務委託、講師派遣事業)	通年	佐賀県内各所	2人	関係者 400名 聴衆者 2500名	619
	小計					7,028
緊急支援事業	平成28年熊本地震支援事業	通年	熊本県内、佐賀市内	2人	被災者 128名 協力者 554名 ボランティア971名	2,398
奨学金事業	奨学金支給	通年	タイ：ノンハーン校・大学生 スリランカ：サンガミッタ女子校 ミャンマー：タンポジ青少年育成センター・ シャン州ホッポシ・シーサイン・ピンラウンタウンシップ	5人	タイ受給生 12名 スリランカ受給生 30名 ミャンマー受給生 88名	3,030
	スリランカ高校生招へい事業	8月	佐賀市、伊万里市、武雄市	1人	スリランカ高校生6人 引率教師2人 日本人ボランティア10人	1,095
	タイ事業(奨学金・新規事業調査)	1～2月	タイ国内	3人	タイ関係者10人	205
	その他(ばーん・たわん)	通年	佐賀市、鳥栖市	1人	購入者100人	30
	小計					4,360
ミャンマー事業	農業支援(循環型農業の農家組合強化)	通年	シャン州、タウンジー郡、セレー、ナウンカ、ハムシー地区	10人	対象地域の有機農産物生産者組合28名	1,004
	シーサイン農業環境及び水環境整備事業(1年目) (外務省NGO連携無償資金事業)	～8月	シャン州、シーサイン郡	10人	対象地域の住民約15,500名	65,131
	シーサイン農業環境及び水環境整備事業(2年目) (外務省NGO連携無償資金事業)	9月～	シャン州、シーサイン郡	10人	対象地域の住民約200名、農地390エーカー	
	カンムーボワ保育園建設	10月～	シャン州、シーサイン郡、カンムーボワ村	6人	保育園に通う70名及び保護者	6,308
	カウンタヤン学校建設	6月～3月	シャン州、シーサイン郡、カウンタヤン村	6人	学校に通う45名及び保護者	
	ルエエー小学校建設	7月～2月	シャン州、ピンラウン郡、ルエエー村	6人	学校に通う51名及び保護者	
	ナウンサン小学校建設	10月～2月	シャン州、ホッポシ郡、ナウンサン村	6人	学校に通う21名及び保護者	
	ワーヤン小学校建設	5月～	シャン州、ピンラウン郡、ワーヤン村	6人	学校に通う224名及び保護者	
	モリンガを活用した循環型農村づくり事業(地球環境基金)	通年	シャン州、ホッポシ郡	10人	地域住民と僧院学校の子供達合計約2,000名	2,361
	シーサインの水資源涵養コミュニティ林造成 ニャウンシュエのアグロフォレストリー事業 (みどりの募金)	通年	シャン州、シーサイン郡 ニャウンシュエ郡、ポーミヤ村、チャウタロン ゲー村	9人	シーサイン町住民約15,000名 ポーミヤ村住民約350名	186
	インレー湖における飲料水の水質改善事業 (ミャンマー春光懇話会)		シャン州、ニャウンシュエ郡、インレー湖	2人	対象地域の住民約15,000名	2,048
	ナウンカセンター改修 (ゆうちょ)	通年	シャン州、タウンジー県、ナウンカ村	6人	長期研修生10名と7日間研修生約60名	49
	物販	通年	佐賀市、能古島	1人	参加者のべ1000名	26
	その他(緊急支援等)	通年	チン州	6人	約1,275名	500
	小計					77,613

成果

オリーブの植樹を30本行い、3年間の事業で
合計100本植樹しました。

背景や活動内容

3年間で、地元の方のご協力により3ヶ所の耕作放棄地を再生することができました。地元の方々としても高齢化や人口流出により人の手が入らなくなり、荒廃していく田畑に大変危機感をもたれています。実際に耕作放棄地化した畑に、鳥獣が棲みついたり、土地の崩落などの原因になっています。その畑をオリーブのオーナーの方々と一緒に維持管理しています。オーナー制によるオリーブのモデル農園を小規模で作り、同じ悩みを持つ佐賀県において、地域モデルとし、将来的な地域内での更なる拡大および商品化を目指しています。

今回は、年間5回のイベントを組み、草刈りや土づくり、植樹などを行いました。また、活動後は地元の方より猪肉の提供をいただき、BBQなどを行いました。

延べ161人の方々に参加いただき、耕作地の維持管理ができています。

(助成団体:JT NPO助成事業)



ふるさとステイ

(中山間地域づくり事業・佐賀市)

成果

佐賀県内および福岡市内から小学生が123名参加しました。

背景や活動内容

2009年より佐賀市北部の山間部になる富士町・三瀬において地元の方々と協働で地域づくりを行ってきました。地元の方との協議で小学生を対象としたキャンプ事業立案に至り、今回で4回目の実施です。

日程として、三瀬中鶴集落では、7月28日(火)～7月30日(木)、富士町関屋集落では、8月1日(土)～8月4日(火)の期間で実施しました。参加した子どもたちはキャンプを通して、見知らぬ地で地元の人との交流を通すことで、世代を超えた人への関心を高め、今後も継続的に里山を訪れることや地元の人に会いに行くなどの絆づくりを期待して行っています。活動は、地元の方より落雁づくりや饅頭づくりを教えていただいたり、竹を使った魚釣り、川遊びなどを行ってきました。また、サポートで入ってくれた大学生も40名ほどのの方々に来ていただきました。



雪国ふるさとステイ

(中山間地域づくり事業・福井県)

成果

一般社団法人アイ・オー・イーとの協働事業により、
佐賀、福岡、熊本、大分の広範囲から募集をかける
ことができ、小中学生34名が参加しました。

背景や活動内容

こちらの事業は2015年度より始めており、今回で2度目の活動でした。

夏の農山漁村地域での体験活動だけでなく、冬にも子どもたちに体験を提供したいという思いから活動を行っています。

期日:平成28年12月23日(金)～27日(火) 4泊5日

活動地:福井県勝山市及び、福井市

期間中、雪国ふるさと学習、暮らし体験及び、自然体験活動プログラム(エコツアー&ネイチャーツアー、ネイチャープログラム、体験学習 等)、雪国ふるさと地域での自然体験活動・文化体験活動&交流活動&暮らし体験活動などを行いました。参加者は、県外の子ども同士のつながりをつくることができました。



成果

4回目の活動により、中国、韓国から佐賀を訪れた大学生が106名になり、目標の100名を超えることができました。

背景や活動内容

2012年夏の尖閣諸島をめぐる日中関係の悪化。「こんな時期だからこそ、同じアジアの一員として、交流を通してお互いを知り、TOMODACHIになることができるか」。そんな思いを込めて、同様に関係が悪化していた韓国を加えて2013年度から始まったのが、TOMODACHI100プロジェクトです。「TOMODACHIを100人つくりたい」と開催を重ね、今回の交流で目標人数を達成することができました。日程：2017年1月16日～23日の7泊8日



参加者／年度	中国人	韓国人	日本人	人数
2013年度	8人	7人	10人	25人
2014年度	19人	7人	15人	41人
2015年度	28人	10人	41人	79人
2016年度	8人	19人	26人	53人
計	63人	43人	92人	総計 198人

活動としては、

中国・韓国の学生に茶道や華道などの日本文化体験をしてもらうだけでなく、佐賀の企業を訪問したり、佐賀県内の家庭にホームステイを行っています。また、日中韓の学生は寝食をともにしながら多くの時間を過ごし、お互いの文化を紹介したり、これからのアジアの問題を自分たちが協力して何ができるかを話し合ったりしました。ただの友達という関係を越え、交流後お互いが行き来し合える「心の家族」ともいえるべき関係性を築くことができました。

（助成団体：佐賀県国際交流協会）

平成28年熊本地震支援

（緊急支援）

成果

佐賀県内の30の団体がネットワークを組み、支援物資やボランティアの派遣を行いました。

背景や活動内容

2016年4月14日、16日に熊本を中心とした大地震が発生しました。

その後、私たちは復興支援を目的に、佐賀県内のCSO（市民活動団体）を中心として、行政・企業とも連携・協働しながら、有志メンバーを30団体が集まり、活動を行ってきました。

最初の活動として、支援物資を佐賀県内に呼びかけて熊本へ配送しました。

主な支援物資はおむつ、生理用品、水、ブルーシートです。

支援物資提供者 554名

仕分けボランティア 113名

配送トラック11台、配送物資総量 約20t

4月17日、18日に呼び掛け、ご提供いただいた物資はすべて、4月21日までに被災地の方々にお渡ししました。

また、その後は4月18日からボランティア派遣を開始しました。現地ニーズを整理しつつ、個々人が持っているスキルや経験値をリスト化してマッチング。県内外から集まったボランティアには一旦佐賀に集まってもらい、現地の様子や心構えなどの説明を行ってから現地へ派遣しました。

主な活動 避難所の運営補助、がれき撤去、イベント運営補助、農家等の家屋片付けなど

人材バンク登録者 186名（2017/3/15現在）

ボランティア派遣数 延べ約858名（2017/3/15現在）



成果

1990年に始めたタイ奨学金事業の終了を決定。27年間で3451人に奨学金を送ることができました。

背景や活動内容

当会は、タイ東北部において1990年から支給を続けてきた奨学金事業について、2017年度の支給を持って終了することを決めました。開始当初は、初等教育を受けることができる児童も少なかったですが、その後、タイでは義務教育が中学校まで拡大。さらには国の経済発展もあり、必ずしも奨学金がなくても学校に通えるようになったと判断しました。実際、2017年1月に現地を訪れ、現在支給するノンハーン校の奨学生8人にインタビューをしたところ、交通費や文房具代に奨学金を使っており、奨学金がなくては学校に通えない状況ではないことを確認。改めて「奨学金の役目は終わった」と判断しました。

これまで、クーキャオ校、ボーゲウ校、そしてノンハーン校の中学生・高校生に対し、形を変えながらも3451人もの生徒に奨学金を支給してきました。1月の調査では、「奨学金がなければ、私は先生にはなれなかった」と話す現在40歳の数学の先生のお話も聞くことができました。受給をきっかけに技能実習生として訪日した元奨学生のお話も知ることができました。この27年間で、一定の成果を残すことができたと思います。長年ご支援をいただき、ありがとうございました。ただ、タイは当会が国際協力へと足を踏み入れるきっかけとなった国。奨学金は終わるにしろ、何かしら別の形での支援・連携は続けていきたいと考えています。



スリランカ奨学生招へい事業

(奨学金・スリランカ)

成果

スリランカから奨学生など8人を佐賀に招へい。日本とスリランカをつなぐ人材育成に取り組みました。

背景や活動内容

2年に一回、スリランカの奨学生から佐賀に来てもらう招へい事業「カタランカ〜Cross Asia〜」を、昨年度も2016年8月に開き、引率2人を含む8人を佐賀にお招きすることができました。「日ス友好の架け橋となる人材育成」をテーマに、優秀な女子学生(支援先はゴール市の女子高校)を支援しておりますスリランカ・シショダ奨学金。各学年10人ずつの4学年を支援していますが、このうち、選抜された生徒6人を佐賀に招きました。生徒たちは、8月5日に日本に到着し、ホームステイ先と交流をしたり、地元の幼稚園を訪問したりなどしました。

伊万里市では、アスパラガスの収穫体験をしたのですが、スリランカでは大きなスーパーにしかアスパラを売っておらず、多くの生徒が食べるのも初体験！ 日本文化体験として、浴衣を着て佐賀市内を闊歩しました。最後は、スリランカフェスティバルと題し、現地のカレーを作ってもらってホストファミリーらにふるまいました。通信事情の良いスリランカでは、訪日した生徒たちと、今回受け入れてくださったホームステイ家族と、お互いの近況や地域のことを紹介合う手紙のやりとりも続いているようです。「国際的な広い視野を養ってほしい」「地域のことを大事にしてほしい」・・・この体験を通し、さらに日本とスリランカという国境を越え、さらなる友好的な関係を築くことができたのではないかと自負しています。

(助成団体:きょうぎん未来基金、佐賀市市民活動応援制度チカラット、佐賀銀行社会福祉基金、前川報恩会地域振興助成金)



成果

ミャンマー2つの奨学金を継続し、2016年度も高校生88人に学ぶ機会を提供しました。

背景や活動内容

高校の数が少なく、農村部に住む子どもたちが学校に通おうとするためには、寮生活が必要となり、経済的な理由から進学をあきらめてしまう子が多いミャンマー。同国では、タンボジ寮に住みながら学校に通う高校生を支援するタンボジ奨学金と、自宅から高校に通う生徒を支援する地球市民奨学金の2つを2016年度も継続し、タンボジ奨学金は2学年16人、地球市民奨学金は2学年72人を財政支援しました。

このうちタンボジ寮生たちは、朝早くから起きて有機農業を学ぶための農作業に従事。昼間は学校に通って夕方に帰宅してからも、農作業や家畜のお世話をし、夜遅くまで勉強に励みました。週末は、環境問題や地域開発について学んだり、石鹸づくりや折り紙の技術を習得したりと、多くのことを学んだ一年でした。2016年度の卒業生の大学進学状況は6月ごろに判明予定ですが、15年度はタンボジ寮卒業生8人のうち3人が大学に合格。2人は地元のタウンジー大学に進み、一人は政府国境省の運営する学費無料の大学に進学するなど、優秀な成績を収めています。

今年3月に卒業した生徒たちもどんな進路に進めるのか、楽しみです！ 有機農業を実践しながら、さらに塾に通わずに勉学に励むミャンマーの子どもたち。ぜひともさとおやになって、ご支援してあげてください！



ばーん・たわん事業

(奨学金・日本)

成果

物品寄付を通じ、20万円を奨学金へ。

子どもたちへ学ぶ機会提供のため寄付入り口を拡大します。

背景や活動内容

当会では、アジアの子どもたちへの奨学金を募る一つの資金調達方法として、物品寄付を募っています。その代表格が、チャリティショップ「ばーん・たわん」(タイ語で『太陽の家』)。多くの方に、古着を送っていただき、その中から商品として使えるきれいな商品に値段をつけ、質屋「ニューポーン」様の一角で販売。2016年度は10万6568円の売り上げがありました。そのほか、16年度はスリランカ招へい事業があった関係で8万3810円のご寄付をいただいたり、イベントでの物販でアジアの雑貨やミャンマーコーヒーなどをご購入いただいた関係で、計20万6608円の教育資金をいただくことができました。

これらの基金は、主にミャンマーの奨学金に充てる予定としています。ご寄付・ご購入いただいた皆様、ありがとうございました！

ただ、ばーん・たわんを始めた2010年度当時と比べ、売り上げは半分ほどに減ってしまっています。競合するファストファッション(流行を採りいれつつ、大量生産により低価格に抑えられた衣料品)の成長や、季節商品を陳列できていない今の体制にも課題があると考えています。

2017年度は、「“モットイナイ”を“マナビタイ”に」をテーマに、チャリティーショップのほかに、自宅に眠る貴金属品やカメラなどを寄付できるシステムもつくり、より多くの子どもたちが教育を受けられる環境を整えていきたいと思えます。本年度もご寄付やご購入をよろしくお願いします。



成果

3つの生産者グループを組織

参加農家の収入は1.5～2倍に増加しました。

背景や活動内容

事業地は、9割が農業従事者という農村部、ミャンマーでは農村部の貧困率は都市部に比べ2倍となっており、農業では食べていけず、タイへの出稼ぎへ行く者も増えています。農業収入が上がらない原因として、化学肥料の値上がり、中間業者による搾取、また農家自身が農業簿記等の知識がなく、収支計算ができていないことなど様々絡み合っています。

そこで、本事業は、農家のエンパワメントと、循環型農業により付加価値をつけた野菜を生産・販売することにより支出削減、収入向上を目指すことを目的とし、事業地の3つの地区において、以下の活動を行いました。

- 1) 農家の組織化と出荷体制の整備による収入向上: 3つのグループを組織、共同集荷の体制を整えヤンゴンに出荷。
- 2) 組合に向けての相互扶助体制の構築: 農業機械(トラクター)を共同購入、安価に皆が借用できるように。
- 3) 農民のエンパワメント: 農業経営セミナーを実施、簡単な農業簿記を学びました。またマイクロファイナンスを導入し、循環型農業の初期投資等に活用しています。

トラクターの使用料や、農産物売り上げの5%を基金としており、今後はグループメンバーによる組織の運営も続けていける見込みとなっており、今後の発展が楽しみです。

(助成団体: アジア生協協力基金)



農村部における飲料水の配水と生活向上

(開発・ミャンマー)

成果

15,500人が安全な飲料水にアクセスできるように

約1300名が循環型農業や保健衛生の知識を身につけることができました。

背景や活動内容

ミャンマーでは、7割が農業従事者ですが、農村部の貧困は都市部に比べ2倍と高く、その農業技術や生産性の低さ、農業灌漑設備の未整備等が大きな課題となっています。また、安全な水にアクセスできない割合も東南アジア諸国の中でも高く、特に乾季には水に起因する病気が増えたり、水汲みの負担が増え困っています。

事業地であるシーサイン・ピンラウン地域も、上記同様の問題を抱えており、2015年より3年間の事業を始めました。本事業の目的は、
・循環型農業の普及と灌漑設備の整備による農業生産性の向上
・飲料水の問題の解決による、農村の生活環境の改善
の2点です。

2016年度には2015年から建設していたシーサイン地域の飲料水の配水設備が完成しました。地域の住民の代表で「水管理委員会」も発足し、住民の意見で、水の使用や管理のルールも作られています。

また、農業研修には予定を大きく上回る1,261名が参加、循環型農業や農業簿記を身につけることができ、保健衛生研修では1,228名が参加してくれました。

シーサイン地域では、飲料水を配水して余った水を農業用水に利用するため、引き続き農業灌漑設備として、水タンク、配水路の整備を行っています。これにより、390エーカーの農地に十分な配水が行われる予定となっています。天水依存型で、雨季しか農業ができなかったのが、雨季乾季と通年の農業が可能になると、農家も楽しみにしています。

(助成団体: 外務省日本NGO連携無償資金協力)



成果

**小学校4校、保育園1舎の建設を行い、
411名のこどもたちの教育環境が整えられました。**

背景や活動内容

ミャンマーシャン州のホッポン、シーサイン、ピンラウンという3つの郡では、内紛の影響や地域の開発の遅れ等により、校舎の整備がなかなか進んでいません。老朽化した校舎は、学習・保育環境としては大変不十分で、こどもたちがけがをするなどの危険もあります。2016年度は、村から要望があり、緊急性の高い4校と保育園1舎を選定し、建設を行いました。同時に、各地域に学校建設委員会を組織。建設中のマネジメントから、建設後の維持管理を責任をもっておこなうよう体制づくりを行いました。

また、村のたくさんの住民が、「私たちの学校」のために労働奉仕に出てくれています。

各校の支援者のみなさまは以下のとおりです。

カンムーボワ保育園：八坂 信夫 様

ワーヤン小学校：御厨 初美 様

ナウンサン小学校：久居ライオンズクラブ 様

ルエー小学校：積水ハウスマッチングプログラム

カウンタヤン小学校：大阪コミュニティ財団「がっこう基金」



モリンガを活用した緑化と循環型農村づくり

(環境・ミャンマー)

成果

**住民と一緒に15,000本のモリンガの植林
モリンガの加工により、60,000チャットの緑化基金が
創出されました。**

背景や活動内容

ミャンマーは、森林減少率がアセアン諸国の中でもワースト3位となっており、当会活動地であるシャン州南部でも、炊事用等の薪の使用、開発のための伐採、焼畑等により、木が減少しています。しかし、住民にとっては生活にかかせない資源でもある木々のため、簡単に伐採をとめることができません。

私たちは、持続可能な環境を守るため、シャン州農村部の3つの地域で

「ミラクルツリー」として注目されるモリンガを活用した緑化活動を2015年度から開始しました。モリンガの葉や鞘は食用になるほか、種からはオイルを絞ることができるため、それらの加工・販売を通じた収入向上と、継続的な植林活動のための緑化基金の創出を行っています。

環境問題や木の役割について無知な場合も多いため、住民に向けた啓発活動も行っています。2016年度は、263名が研修に参加し、住民自ら674本の植林も行いました。地域住民の理解と活動の広がりを実感できています。

また、モリンガの加工品の品質向上のため、11月には日本においてマーケティング研修も行いました。モリンガティーを実際に試飲してもらったり、日本の高品質な商品を見たりしました。今後は、質の高いモリンガの加工品の製造と販売経路の確保が課題となるため、住民と協力し、頑張っていきたいと思っています。



(助成団体：地球環境基金)

成果
水源枯渇を防ぐためチークやモリンガなど10,113本を植林しました。

背景や活動内容

ミャンマーシャン州のシーサイン郡に住む約3,000世帯は、湧き水を水源として飲料水・生活用水を確保してきました。しかし近年、水源周辺で木の伐採などが増え、水量が徐々に減少。地域住民が主体となり、この問題に取り組むことが必要でした。そこで、水源周辺に約1万本の植林を行ったほか、教材を作成し、子供達を対象に環境教育を実施しました。また、育苗・給水設備を整備し、今後も住民が主体となって環境教育・植林活動が継続できる体制を整えることができました。

(助成団体:国土緑化推進機構「緑の募金」)



循環型農業モデル化事業

(環境/ミャンマー)

成果
焼畑などで森林減少の3村に循環型農業を導入
モリンガ2,500本を植林しました。

背景や活動内容

シャン州ニャウンシュエにある3つの村では、焼畑農業や生活用の薪の伐採が原因で、森林面積が年々減少しています。住民たちは問題意識を持っているものの、解決方法が分からないためこれまで通りの生活を続けていました。そこで、これらの村に循環型農業の手法を導入し、地域に合った果実・種子を活用できる樹木の植林を行っています。これまでに、モリンガ2,500本の植林を実施。また、専門家を交え、循環型農業に関する研修等を行い、環境に対する住民の意識向上にも取り組んでいます。

(助成団体:国土緑化推進機構「緑の募金」)



インレー湖の飲料水・水質改善事業

(開発/ミャンマー)

成果
約15,000人に安全な水が届くようになりました。

背景や活動内容

インレー湖の水は水質悪化により飲料水・生活用水として使用できなくなり、周辺住民は当会が2014年に整備した給水施設の水に依存していました。しかしその水もカルシウム濃度が高かったため、ミャンマー春光懇話会の融資企業(日立アジア様、日立ソーエレクトリック&マシナリー様、日立エレベーター様、日立物流様、NIPPO様、損保ジャパン日本興亜様)よりUSD32,000の助成をいただき、軟水器を設置しました。これにより、3,000世帯の約15,000人が、安全な水を使用できるようになりました。

(助成団体:ミャンマー春光懇話会)



地球市民の会 33 年の歴史

- 1973 年 「佐賀フランス研究会」設立(地球市民の会の前身)
- 1980 年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
- 1983年 「地球市民の会」設立
- 1986年 第 1 回小さな地球計画開始
- 1987年 日タイ協力事業開始
- 1988年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
- 1990 年 地球市民奨学金開始
- 1992 年 人間の持つべき文明「テラアピール」発表
- 1993年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
- 1995 年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
- 2002 年 NPO 法人格取得
- 2003年 ミャンマープロジェクト開始
- 2008年 創始者 古賀武夫 逝去
- 2009 年 人間の持つべき文明 2009「テラアピール 2009」提唱
- 2009年 佐賀市中山間地地域づくり事業開始
- 2010年 国税庁より認定 NPO として認定
- 2011年 ASC2008 認証
- 2011 年 東日本大震災復興支援事業開始
- 2013 年 創立 30 周年記念・北澤氏講演会
- 2015 年 ASC2012 認証
- 2016 年 平成 28 年熊本地震支援事業開始



タイ・ノンハーン校の奨学生

地球市民の会 主な褒章

- 1988 年 サントリー地域文化賞
- 1989 年 国際交流基金地域交流振興賞
- 1994 年 佐賀県県政功労者知事賞
- 1996 年 自治大臣表彰
- 1996 年 厚生大臣感謝状
- 2000年 外務大臣表彰
- 2003年 にしぎんアジア貢献賞
- 2006年 地球倫理推進賞
- 2006 年 文部科学大臣奨励賞
- 2017 年 かめのり賞
- 2017 年 社会貢献支援財団賞



スリランカ奨学生招聘 さとおやさんと

地球市民の会組織図 2017 年度

